

## めむろ★未来ミーティング【報告書】

日 時 令和2年2月5日(火) 18時30分～20時35分  
場 所 保健福祉センター  
団 体 芽室町どんぐり会  
参加者 10人  
出席者 手島町長、有澤保健福祉課長、吉川障がい福祉係長、(記録 矢野)

対応・検討が必要な事項  
なし

### 1 どんぐり会 田中副会長挨拶

オークルができて30年が経過した。徐々に施設の充実が進んでいると実感している。会員の皆さんにとってはまだまだだと思っておる方もいるかもしれません。しかし、ゼロからのスタートを振り返ると支援してくれる町には感謝している。今後も障がい者とその家族へのご理解をいただき、できる範囲でご支援を願いたい。

### 2 手島町長挨拶

昨年も実施させていただいた。今年もミーティングができることに感謝したい。

参加している方が身近に困っていること、不安なこと、疑問なこと、それぞれの想いを話せる機会になっているのですべての参加者の発言をお願いしたい。

### 3 自己紹介

(参加者)

子どもがオークルに通っている。オークルでの仕事は役場から依頼された印刷などを行っている。

(参加者)

弟がオークルで通っていて、かなり認知症が進んでいる状況で今後は心配な気持ちで過ごしている。

(参加者)

息子がオークルで行っていて、ケアホームに通っている。なかなか大変な子どもである。女性のケアホームが建ててもらって嬉しい。この施設を良いものになって、今後も男性の施設を検討してくれることを希望している。

(参加者)

娘は40代後半になった。リスドンに籍をおいているが不安定になることが多く、通所できないことがある。ケアホームに入所しての生活にも不安がある。将来は親が不安のないように暮らしてもらえる環境になればいいなと思っている。

(参加者)

息子は40代前半になった。ケアホームに入所して安定している。

若い保護者に知ってもらえるように町民活動支援センターを通じて、すまいるに掲載した経過がある。さまざまな情報発信をしたいと思う一方で何を伝えるべきか、模索している最中である。今後もアドバイスをもらいながら、一歩ずつ進めていきたい。

(参加者)

息子は40代前半になって、オークルと月曜日から金曜日までケアホームに通っている。去年も今年も健康診断を受けることができるように配慮してくれたことに感謝している。

かぼちゃ収穫体験をした。本人もやる気もあるし、農家からも激励の声をかけられた。今後も長期間で継続してほしいです。町民や農家の人たちとの触れ合える機会はとても良い刺激になっている。

(参加者)

息子は20代前半で九神ファームにいるが精神年齢は高くない。あとでいろいろな話をさせてもらいたい。

(参加者)

息子は40代前半で九神ファームにお世話になっている。この場で上手に話ができるか不安はあるが、親の苦悩などを知ってもらえる機会になればいい。

(参加者)

息子は30代前半。JAフーズで働いていて、朝早くから仕事に行っている。仕事をしているが悩みは尽きない。

ケアホームやグループホームなどどんな種類の施設があるのか？あとで説明してほしい。

(参加者)

娘は30代前半。オークルでは印刷の仕事をしている。現在建設中の施設を見ると新たな生活のイメージが沸いている。自分としてはこんなに早く建つとは思っていなかったので、町長をはじめ、保健福祉課長ら尽力してくれた方に感謝したい。

#### 4 意見交換

(吉川係長)

質問のあったケアホームとグループホームの違いについて。かつてのケアホームは食事入浴などの介護の必要度が高い方がケアホーム、低い方がグループホームと区分けされていたが、平成25年頃に一体化されてグループホームになった。

みなさんには馴染みのある名称としてケアホームという場合があるかもしれないが、正式にはグループホームである。そして、現在はそのグループホームにも介護の必要度等に応じて3種類に分類されている。

(参加者)

息子はかぼちゃ収穫を経験していた。農家も労働力が不足している実態もあり、今後もその可能性の広がりはあるのか。

(町長)

農福連携という言葉があり、いままでもこの取り組みを進めてきた経過がある。ご意見にもあったように農業部門の人手不足が著しい中で福祉現場の人材を農業収穫に活用できないかということで福祉サイド・農協サイドなどと調整をした結果、昨年初めて西土狩地区の農家さんのご協力のもとでかぼちゃ収穫を行ったということである。

現在は農林課が中心となって、障がい者を労働力として受け入れてくれる農家への説明やどの時期にどんな仕事が担えるのかなどという聞き取りを進めていることから、今後この仕事というのは増えていく可能性がある。

(参加者)

工事のコーンの洗浄や原木のしいたけの菌打ちなどの作業も増えてきている。春・夏・秋で季節ごとにトータルな仕事があれば尚さら理想だ。

(町長)

オークルは西土狩地区にあることから、西土狩地区の農家に理解をしてもらえると望ましい。昼食時間にも戻れる。去年のかぼちゃのトライアルの声を聞くと「想像以上に頑張っていた」との意見があった。作業をチョイスして行けば、まだまだ広がることが期待できる。

(保健福祉課長)

農林課長と一緒に農協と協議をした結果として、昨年のトライアルになった。受け入れる農家は作業を安全でかつ効率的にする方法を考えていたし、オークル職員においてもどうしたら能率よくできるかを農家に提案していた。それぞれが情報交換をすることでまだまだ前進できていると感じている。

(参加者)

九神ファームの件。九神は一般就労へのステップの道だと思っていて、働いている子どもたちにもそのように指導している。

しかし、実際の受け入れてくれる一般企業は2社程度しかないのが現実である。もっと一般企業への開拓などを進めてほしい。

(保健福祉課長)

当初は一社だけだったが、現在は五社まで増えてきている。今後も障がい者雇用の必要性を理解してもらい、企業での採用を増える努力を継続する。

商工観光課で行う企業セミナーにも関心のある企業の参加が増えている。

(参加者)

一般就労ということで食品会社が受け入れてくれていることに感謝している。しかし、一般企業では人間関係の壁があると思っており、ジョブコーチという制度があるので人間関係を円滑にできるシステムがあると良いと思っている。

受け入れる会社にも障がい者を受け入れる体制も整っていないので、そのあたりのフォローも必要。せっかく一般就労した人も退職してしまうケースがある。

(障がい福祉係長)

プロジェクトめむろが支援している。担当職員が企業や障がい者とのやりとりをしている。一般就労移行後も企業と本人を繋ぐことをしているのがプロジェクトめむろ。就労した本人はもちろん、受け入れる企業とも連携して、さまざまな課題への解決を行っている。

(参加者)

芽室町で生まれ、芽室町で育ち、芽室町で働き、芽室町で老いていく障がい者をトータルで見てくれる地域コーディネーターという人材が必要ではないか。役場なら数年おきに異動になれば、こっちは困ってしまいます。

(参加者)

一般就労した場合は、それで終わりになってしまうと心配だ。人間関係で悩んでしまうと退職する場合もある。半年に一度か年に一度か声かけする機会はあるのか。

(保健福祉課長)

九神ファームは障がい福祉サービスであることから、相談支援事業として町職員が入るので面談等は行う。しかし、一般就労するとご指摘のように繋がりがなくなるからプロジェクトめむろに依頼している。福祉の視点でつながる仕組みを平成 28 年にその制度を作って歩んでいるところである。

一般企業の中には先駆的な取り組みで専門のジョブコーチを配置しているところもある。理想はすべての職場にジョブコーチ配置が理想であるが現実的には厳しい。

よって、歩み始めたばかりなので、模索しながら進めていることは理解願いたい。

(町長)

今までの話を聞いていると一般就労したあとのケアがまだまだ不十分であるということが分かった。今後は就労後のケアや相談窓口などの体制を考える必要があると思っている。

(参加者)

九神ファームから食品加工会社に就労したのは自動車免許をもった人だけ。親が送り迎えするのは現実的には相当無理がある。

議会の厚生常任委員会でもじゃがバスを利用する方法がないのかという議論があった。障がい者の交通手段の確保という支援はないのか。

(参加者)

ばあばで働く子もいる。朝一番の便をせめて 15 分早くすると利用できる。しかも、芽室高校に通う高校生の利用の幅も広がると思後ろ、利用者増加につながっていると思います。

(町長)

じゃがバスのルートは変更できないことはない。ルートについてはどこまで出せるかは不透明だが、検討する余地はある。利用者の声を聞きながら利便性の向上にためにもしっかり考えたい。障がい者に特化するだけでなく、町全体の課題として検討したい。

(参加者)

私もこれからじゃがバスの利用者になると思し、免許返納者も増えてくることが予想される。高齢者や障がい者が多く利用するのであれば、バスを待つことができるベンチやイスの設置も考えてほしい。

(町長)

規制があるのでできない。バスの停留所の除雪は公共サービスパートナーとして町内会

に依頼している。

（参加者）

就労の場、生活の場、余暇の場の３つが必要だと思いながら活動してきた。就労の場は何か増えている状況。次は生活の場であると思っている。町内はもちろん、管内にも限られた施設しかないのこれから建設してほしい。

（保健福祉課長）

来年度の新たな取り組みとして、旧農業試験場住宅の跡地にお試し体験住宅を開設しようと考えている。その先には一般就労した方の住宅も視野に入れたものである。アンケート調査の意見からもいきなりグループホームに入所することに不安を持つ方が多かったことを踏まえ、町にどんな種類のグループホームが必要なのかということのある程度の時間をかけて考えていこうと思っている。

（町長）

住所は東２条南５丁目で芽室浄水場の西側。障がい者のお試し体験住宅は平屋の２棟を改修してから今年の１０月頃を目途に利用できることを想定している。

大きな建物は２４戸ある。各産業で不足している労働力が深刻な問題となっており、農業労働者や商工業での働き手を募集するための住宅を整えたいと思っている。余談ではあるが旧南保育園の跡地は宅地分譲する予定がある。

（参加者）

芽室小学校・芽室中学校が近くて、環境的にも良いと思う。しかし、芽室小学校の児童数が減っているという話を聞く。

（町長）

芽室町でも少子高齢化は顕著。人口の話をすると子どもが減ってきている。今年の成人式の新成人は２０７人。去年の中学校卒業者は１６０人で４０人減っている。さらに、去年一年間に生まれた赤ちゃんは９９人。つまり、６年後の一年生は約１００人しかいないことになる。現在は３５人学級であることを考えると町内に３クラスあれば、足りてしまうことになる。

今後は小中学校の学校自体どうするか、学区をこのままにするのか、などの話し合いをする時期が近いかもしれない。

（参加者）

障がい者のお試し体験住宅には管理人はいるのか。

(町長)

7月から職員を配置することを想定している。お試し体験住宅を利用される方はもちろん、さまざまな課題について相談などを受ける。

また、町にはどのような施設のニーズが高いのかなど、今後の展開についても考えてもらうつもりである。

(参加者)

障がいをもった方にはインフルエンザ予防接種に助成がない。3,800円の自己負担は大きいので検討してほしい。高齢者と中学三年生には半額助成しているので障がい者にも広げてほしい。

(町長)

予防接種の単価は病院ごとに決定している。助成については意見として聞きたい。

(20時35分 終了)

#### 【ミーティング写真】

